

多久市民大学「ゆい工房」
きもの塾



初心者も経験者も楽しく上達できる“きもの塾”
いつもと違う自分を着物で!!

◀細かいポイントや礼儀に対するアドバイスなど講師の弾む声と受講者の笑顔が絶えなかったきもの塾
(11月26日の昼コース。ギャラリー三蔵堂で)

「自分で着物を着たい」と憧れる女性に人気の『きもの塾』は、最小限に必要な用具で気軽に楽しめる講座です。今期は、浴衣や外出着など基本の着付けとお太鼓、二重太鼓など帯の結び方を体得する5回コースが昼・夜の部で行われました。経験と知識が豊かな日本舞踊師範・藤間勢澄さん(北多久町在住)が講師で、お茶のいただき方や襦の開け閉め方、歩き方など作法を学べる

のも一味違い、継続すると人に着せられるように上達。講師は「寸法が合うか、どんな場面で着るのかを知るためにも、家にある着物を全部持って来て!繰り返し着て感覚をつかむのが上達のポイント」と話され、受講者は「祖母や母と体型が似ているので、受け継いで着たいと受講。手頃な受講料も嬉しい」と来期も楽しみにされていました。

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

いさぎよく金木犀は散りしきて墓所への階段 華やぎており
内科歯科リハビリ整形つぎに 具体的にと老いは来れり
青々と茂りし山を通り抜け 澄みたる空気に心癒さるる
お習字は卒寿の吾に少し無理 三日のちには首の痛み来
老ふたり俺を看てからお前逝け 夫婦の会話逝くことばかり
内田 龍子
田淵ミチ子
本田 静香
迎 寿代
福島那智子

俳句

《あざみ句会 互選》

鴨の来て湖は碧さを深めけり
枯葉踏む人それぞれの音立てて
山寺の定時の鐘や夕時雨
サイレンに犬遠吠えの霜夜かな
吊橋の大きく跨ぐ紅葉谷
大石ひろ女
中嶋 清子
光野 正子
田中久美子
中尾 和弘

川柳

《多久川柳会 互選》

床の間に正座して待つ鏡餅
父さんの失敗かくす苦笑い
年重ね恋しさつのる血の温み
新年を迎えてどっと初笑い
そこまでと友が首振る袖を引く
松下 修
木下 ユキ
高塚チカ子
武富よう平
富安 正喜

No. 153
人権教育
と生に生きる

「心の場所」

ある冬の寒い日にひとりのおばあさんがこう言いました。
「あゝ寒い寒い。身も心も凍ってしまいそうだよ。早くあの世にいつて楽になりたい。極楽に行きたい。」
隣にいたもうひとりのおばあさんは、少し陽が差してきた時には、「あゝばかばかりして暖かいね。極楽、極楽。」と言いました。
良い事も、悪い事も、自分の心のありようで決まると思っています。そして心に余裕があると、気転のきいた

ひと言が返せることもあります。また、ほんの少し角度を変えて物事を見てみるといろんな気づきも出て来ます。二人のおばあさんの気持ちは誰の心の中にもあることです。
出来れば、不平不満ばかりで毎日を過ごすのではなく、いろんな事に関心を持ちながら、そこにある小さな幸せを見つけて過ごしたいと私は思います。新しい年の始まりに自分の心のおき場所も今一度考えてみてはいかがでしょう。
「極楽は西にはあらず 東にも北みち(来た途)さがせ 南(皆身)にぞある」(極楽は、西にも、東にもない。これまで歩んで来た道にあるのだろうか。いや、極楽は皆の心の中にあるんだよ。)

社会教育指導員 野中久美子